

22 陰嚢部痛に対する桂枝茯苓丸の使用経験

北海道立子ども総合医療・療育センター 小児泌尿器科¹⁾、
札幌医科大学 感染制御・臨床検査医学講座²⁾

上原 央久¹⁾、伊藤 悠¹⁾、高橋 聡²⁾

2022年10月より2025年1月までに陰嚢部痛を主訴に受診し精巣炎、精巣上体炎に対し桂枝茯苓丸を投与された症例を後ろ向きに検討した。症例は6例、年齢の中央値は12歳、BMIの平均値は22.6であった。6例中5例で治療前に陰嚢部痛を反復していた。3例に精索静脈瘤の併存を認め、うち1例は左精索静脈瘤grade3の診断であった。6例のうち1例が投与後受診されず、左精索静脈瘤grade3の症例が内服しなかったため、効果が確認できたのは6例中4例であった。4例中3例で内服後陰嚢部痛は消失し、1例でNumerical rating scale やFace rating scaleの改善を認め、全例で疼痛の改善を認めた。内服に伴う有害事象は認めなかった。

桂枝茯苓丸は睾丸炎の適応があり、過去の報告では瘀血の改善や精巣炎、精巣上体炎に伴う陰嚢部痛の改善が報告されている。成人の報告が主であり小児の報告はまれであり、今回小児の陰嚢部痛に対して有効かつ安全に使用できたため、文献的考察を踏まえ報告する。